

【表紙】

作品タイトル

「101回目の卒業式」

(ひゃくいっかいめのそつぎょうしき)

鎌田勝浩 作

(かまだかつひろ)

年齢41歳

原稿枚数 27枚 / 200字詰め原稿用紙換算79枚 = 20文字 × 783行  
(本文のみ)

電子メール kamada@kil.co.jp

【あらすじ】

主人公、端山美樹（18）は、元生徒会長の高校三年生である。いつの頃からか、卒業式の日を延々と繰り返しているのを自覚していた。

いつものように遅刻ギリギリに目覚め、登校するために近道である中央公園内を走っていた主人公。突然、目の前に現れる黄色い“蝶”。この蝶が彼の運命を変えてしまう。

一度はあきらめながらも、かろうじて遅刻を免れた主人公だったが、今まで何度となく繰り返し、熟知していた歴史が、今変わろうとしている事に不安を覚え始めていた。

最後のお務めを終え、いよいよ何度となく挑戦して来た“作戦”に取りかかることするが、なぜか何度も邪魔が入ってしまう。作戦自体も失敗し、いよいよ歴史が大きく変わっている事に気づき、動揺する主人公。

そんな時、元部下の村野美土里に捕まり、屋上に連れて行かれてしまう。あまりに多い身の覚えに、不安を隠せない主人公。すると、意外な事に、彼女は“告白”を始める。彼女の告白に、自らの彼女への気持ちに気づく主人公。それを受け入れる事にした。

……不意に始まったエンディングに混乱する主人公（30）。実は、今までの世界は、20世紀末の日本の高校という舞台を借りて、自らの卒業式をやり直し、再体験を繰り返す事のできる、バーチャルリアリティ体感ゲームの世界だったのだ。

2100年の宇宙港にいた主人公は、これから火星観測基地に赴任するところだったが、出発前に新妻と喧嘩し、不安を抱えたままの旅立ちだったのだ。

突然、ゲーム世界と同じ鈴の音が聞こえてくる。そこには、新妻、美土里の姿があった。思いがけない登場に驚きながらも、改めて彼女との絆を確かめ合う主人公達であった。

【作品のキャッチコピー】

「延々と同じ一日を繰り返す世界。だが、一匹の“蝶”によって、ついに歴史は動き始める。歴史は二人に、どんな未来を見せるのだろうか」

【主人公の人物像】

主人公、端山美樹（はたやまよしき：18）は、元生徒会長の高校三年生である。いわゆる生徒会長らしからぬ、元来のお祭り好きで行動力のある彼は、幾多の武勇伝を持っているようだが、それについてはここでは語られない。生徒会活動に熱を入れすぎたため、自分のクラスのクラスメート達とは疎遠になってしまっていた。舞台設定が違っただけ、実際の彼も、ほぼ同様な過去を持っており、ゲーム世界は十分にあり得たこの世界であった。

端山美樹（30）は、若手の自然科学研究者で、念願叶って火星観測基地に赴任するところであった。出発前に、新妻の美土里と喧嘩し、仲直りができないまま、9ヶ月の長旅に出ようとしていた。そんな時、出発前の持て余した時間を使って始めたのが、このゲームであった。

タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゲ | 西 | 小 | 木 | 中 | 高 | 村 | 端 | 登 | タ |
| ! | 川 | 林 | 下 | 西 | 山 | 野 | 山 | 場 | イ |
| ム | 広 | 薫 | 裕 | 雅 | 晶 | 美 | 美 | 人 | ト |
| の | 志 | へ | 幸 | 人 | へ | 土 | 樹 | 物 | ル |
| 説 | へ | こ | へ | へ | た | 里 | へ |   | □ |
| 明 | に | ば | き | な | か | へ | は |   | 1 |
| 書 | し | や | の | か | や | む | た |   | 0 |
| き | か | し | し | に | ま | ら | や |   | 1 |
| を | わ | か | た | し | あ | の | ま |   | 回 |
| 読 | ひ | お | ひ | ま | き | み | よ |   | 目 |
| む | ろ | る | ろ | さ | ら | ど | し |   | の |
| 声 | し | : | ゆ | と | : | り | き |   | 卒 |
| へ | : | 1 | き | : | 1 | : | : |   | 業 |
| 女 | 2 | 8 | : | 1 | 8 | 1 | 1 |   | 式 |
| 声 | 8 | へ | 1 | 7 | へ | 7 | 8 |   | □ |
| へ | へ |   | 8 | へ |   | へ | へ |   |   |
|   |   |   | へ |   |   | 2 | 3 |   |   |
|   |   |   |   |   |   | 9 | 0 |   |   |
|   |   |   |   |   |   | へ | へ |   |   |

脚本 鎌田勝浩

タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

端山 N → 暗転（Nのみ）

端山 N → それは、桜の花が咲き始めるころの

事だつた。

中央公園入り口（朝）

学生服姿の端山（18）が、桜の咲き始

めた、木々の生い茂る広い公園脇の道を、

走っている。

端山 N → 俺は、同じ一日を繰り返していた。

高校生活最後の日であるその日、卒業式の

一日を

公園入り口の車避けの柵を、片手でひよ

いと飛び越え、公園内に走り込んでいく。

「タイトル」

中央公園内（朝）

公園内には、犬を連れて散歩している人、

咲き始めた桜を眺めている人など、閑散

としたはいるがあちこちに人が歩いてい

る。桜並木が続くその中を、ひよいと身

をかわしながら、端山が走り抜けていく。

端山 N → 何故かはわからない。何度か友達に

も尋ねてみたが、誰も気づいていなかった。

卒業式の日を繰り返しているのに気づい

ているのは、俺だけだった。

犬を連れられた女性が歩いてきて、端山とぶ

つかりそうになつて

端山 → おつと、ごめんよ。

さつと躲して、啞然とする女性を後に、

走り去つていく







タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

端山 M「信号を渡り、バスの後を追う。  
 遠くで、バスがバス停に止まるのかっ！」  
 手を振りながら走りつつ乗ります！乗ります！  
 そのバス、待ってっ！乗ります！乗ります！  
 呼びもむなし、バスは走り出してしま  
 う。  
 バス停前（朝）  
 なんか彼方を走っていた。バスを見送りな  
 遥か彼方を走っていた。バスを見送りな  
 がら足を止め、息を切らしながら  
 端山 M「：：：歴史が変わった。：：：歴史  
 が、：：：知ってる歴史が変わってしまっ  
 た。：：：知ってる歴史が  
 息が落ち着いてきて  
 端山「それより、学校どうしよう？これじゃ、  
 完全に遅刻だ！」  
 途方に暮れる端山。  
 とりあえず、落ち着こう」  
 ふと見ると、バス停前に自販機があった。  
 思い出して、  
 端山 M「そういえば、さっき拾った百円玉が  
 あったな。あれでコーヒーでも飲んで、落  
 ち着くか」  
 ポケットをまさぐり、先ほどの百円玉を  
 取り出す端山。自販機に向かい、缶コー  
 ヒーのボタンを押す。落ちてくる音がす  
 ると、背後でバスが接近してくる音がし



タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

くと策のばでさ役員生徒だで現山山の今西  
 てもだ無、きえ員徒が副生N、お日は  
 、言そ関聞る受けの長う会徒、れ卒業  
 もわう心こえまれば人事は、高校は俺  
 うれだ。い、い、大統本的に生徒会委員  
 一て。う、い、い、大統本的に生徒会委員  
 人のる。ため、別名、生徒、会苦肉の  
 副。本、生徒、会苦肉の  
 会。本、生徒、会苦肉の  
 長。本、生徒、会苦肉の  
 の。本、生徒、会苦肉の  
 。本、生徒、会苦肉の  
 あ。本、生徒、会苦肉の  
 い。本、生徒、会苦肉の  
 つ。本、生徒、会苦肉の  
 。本、生徒、会苦肉の  
 が。本、生徒、会苦肉の  
 生。本、生徒、会苦肉の

タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

徒会長を継ぐと思っ  
 端山の手にある物に  
 気がついていたんだ  
 が……  
 中「あれっ、先輩、  
 何持ってるんです  
 か？」  
 端山「ん？あ、これ  
 か。(缶をかざして) さ  
 き買ったんだが、結  
 局飲む暇がなかった  
 中「じゃ、それ、俺  
 にくださいさいっ！」  
 端山「おいつ、中西  
 ! てめえ！」  
 端山「Mこいつはいつ  
 もこうだ。特に会長  
 になつてからは。昔  
 は素直なやつだと思  
 ってた  
 中「不敵な笑いを浮  
 かべながら  
 中「ね。ただ貰っちゃ  
 あ、代わりにこれ、  
 あげます」  
 中「の強引に何かを  
 取り出し、端山の手  
 中「ごっくり俺、用事  
 がありますんで。……」  
 端山「ていく中。音  
 を立てて扉を閉めて、  
 去っ  
 手の中。蝶のついた  
 ホルダ？蝶？みる。  
 た。蝶は黄色で、ガラ  
 スの半透明に  
 透き通った素材で  
 できている。銀色の  
 縁  
 取りがあった。一  
 緒に小さく、鈴もつ  
 いて。



タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

小林「（笑顔で）端山君、行こうよ」  
 端山M「そんな事をしたら、作戦が…第一、俺は生徒会活動にかまけたお陰で、クラスの人や仲間は、かえって他のクラス、他の学年、他校の方が多いくらいだ。…どうしたらこの危機から脱する事ができるか…」  
 端山「姿勢を正して、ここにこしながら」  
 ね「まやまなんだけど、あいにく先約があつて」  
 木下「（残念そうに）やっぱり、あれか？生徒会関係？」  
 小林「えーっ、行きましようよ。最後なんだ」  
 端山「廊下を歩く、高山晶の姿が目に入った。」  
 端山「うー、ほ、ほら。他の人も、部活関係とか、色々と忙しい人たちもいるでしょ」  
 木下「ま、まあな」  
 小林「でも、端山君、あんまり顔見せないし、」  
 木下「涙目になっただけ」  
 だろ「うまあ、端山も色々付き合ってるんだ。仕方ないさ。な、小林さん」





























タイトル『101回目の卒業式』 - シナリオ

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| だ | ム | 土 | ば | 山 | な | た | 土 | 山 | 出 | よ | ど | つ | た | た | 土 | と | い | に | な | 土 | 嘩 | く | な | 山 | て |   |   |   |   |  |
| も | セ | 里 | で | 「 | そ | か | ° | 里 | 「 | は | く | 、 | て | よ | の | 来 | そ | か | じ | な | の | し | れ | く | 「 | そ | る |   |   |  |
| ん | ン | 「 | 見 | そ | う | っ | す | 「 | 美 | 祝 | で | ： | く | ね | ° | 「 | て | う | 言 | や | っ | に | 「 | て | れ | は | い | う | で |  |
| 、 | タ | も | て | う | 言 | た | ぐ | だ | 土 | わ | き | ： | る | ° | 火 | で | 、 | 言 | っ | な | て | 、 | そ | た | ば | な | 「 | 言 | し |  |
| び | 「 | ち | い | か | っ | ？ | 後 | か | 里 | な | た | 夢 | の | 確 | 星 | も | 隣 | っ | て | い | 火 | い | う | の | ° | い | い | っ | よ |  |
| っ | に | ろ | た | ° | て | 「 | ろ | ら | 「 | い | 新 | が | が | か | 行 | ね | に | て | 出 | ° | 星 | き | よ | に | ： | け | や | て | ° |  |
| く | 入 | ん | の | ： | 意 | に | 、 | と | 妻 | 、 | 9 | に | き | 、 | 窮 | 、 | て | お | 行 | な | ° | 「 | ： | ど | 、 | い | け | な | い |  |
| り | っ | 、 | ？ | ： | 地 | 居 | 私 | ° | と | 美 | ヶ | 、 | は | あ | 屈 | 狭 | 行 | ま | き | り | ま | い | 、 | い | 不 | け | な | か | な |  |
| し | て | そ | 「 | え | 悪 | た | も | そ | し | 樹 | 月 | あ | 、 | れ | に | い | っ | け | を | だ | だ | や | 、 | 来 | け | 敵 | な | か | な |  |
| た | 、 | う | だ | 、 | 笑 | だ | け | で | 思 | 、 | が | ん | り | の | 冷 | て | セ | う | れ | 出 | い | ° | 婚 | 来 | な | く | 笑 | っ | た |  |
| 「 | ゲ | 「 | よ | じ | う | け | で | 思 | 、 | が | ん | り | の | 冷 | て | セ | う | れ | 出 | い | ° | 婚 | 来 | な | く | 笑 | っ | た | ？ |  |
|   | ム | ° | や | あ | 、 | ど | 付 | っ | や | 叶 | て | 急 | 前 | 静 | 続 | ル | し | か | す | き | ヶ | て | ら | は | う | た |   |   |   |  |
|   | 始 | い | あ | 、 | ： | ： | い | た | の | ぱ | ん | 長 | 、 | か | に | な | る | 中 | す | ん | り | の | た | で | け |   |   |   |   |  |
|   | め | き | ず | 、 | ： | ： | て | の | り | だ | 過 | し | の | つ | に | 入 | っ | 、 | 、 | 週 | 間 | の | ん | 、 | ど |   |   |   |   |  |
|   | ち | な | っ | と | 気 | 来 | 「 | 夫 | の | ね | る | も | だ | 考 | え | 、 | 、 | 週 | 間 | の | ん | 、 | ど |   |   |   |   |   |   |  |
|   | や | り | と | そ | が | ち | 「 | の | 門 | ° | け | 帰 | っ | え | 、 | 、 | 週 | 間 | の | ん | 、 | ど |   |   |   |   |   |   |   |  |
|   | う | ゲ | と | そ | っ | や | 「 | の | 門 | ° | け | 帰 | っ | え | 、 | 、 | 週 | 間 | の | ん | 、 | ど |   |   |   |   |   |   |   |  |
|   | ん | 「 | そ | か | っ | か | っ | の | 門 | ° | け | 帰 | っ | え | 、 | 、 | 週 | 間 | の | ん | 、 | ど |   |   |   |   |   |   |   |  |



美  
士  
里  
（  
O  
F  
F  
）  
「  
こ  
れ  
は  
、  
私  
の  
大  
切  
な  
物  
だ  
か  
ら  
」  
【  
終  
わ  
り  
】